

- 森林環境譲与税の使い道が課題となっている中、当該税が創設された趣旨を踏まえて活用方法等を検討した。
- 幼稚園や保育園などに通う5歳児（年長児）を対象に、埼玉県産木材で作られたマグネット付木片を知育教材として活用し、児童の創作意欲をかきたて、五感の成長を促すとともに、「木育」を通じ自然との関わり・森林環境への理解を促す取組を実施することとした。

□ 事業内容

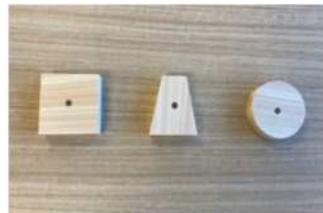
市内の幼稚園や保育園などに通う5歳児（年長児）を対象に、埼玉県産木材で作られたマグネット付木片を知育教材として配布し、木育教育を行う。

- 木との触れ合い（木片をヤスリがけして手触り、香りを感じる）
- クラスメイトの木片を壁面等に寄せ集め、保育中や自由遊びの中で児童の自由な発想により様々な形を創るほか、数字などの学習にも活用する。
- 木育に関する啓発リーフレットの活用により森林環境の大切さ等の理解を促す。

【事業費】 2,673千円（うち譲与税2,673千円）
 （譲与税は、知育教材の調達に係る部分に充当）

【実績】

施設種別	対象施設総数	実施希望施設数	対象人数
私立保育園	19	16	381人
認定こども園	10	3	236人
私立幼稚園	20	8	610人
公立保育所	18	18	496人
計	67	45	1723人



(知育教材)



(教材を使っている様子)

□ 取組の背景

本市の森林環境譲与税の活用の方向性として

- 子育て支援関係事業への重点的な活用
 - 森林整備を支えるための継続的な普及啓発に向けた活用
- が示されており、未来を支える子ども達が直接的に携われる事業へ活用することとした。

□ 工夫・留意した点

- 児童の自由な発想を引き出し、創造的な使い方を自分たちで考えることができる教材・プログラムとすることを目指した。
- ケガや事故のないよう配慮しつつも、木の特性を体感するためにあえて未完成の状態で教材を提供した。

□ 取組の効果

- 子どもたちは木片の組合せによってイメージを表現する過程で、身の周りにある図形への関心が高まったほか、五感で木の温もりを体感することができた。
- 子どもたち同士で何を創るかミーティングを行い、自らイメージしたものを表現したり他者の意見を聴き受容する機会を、埼玉県産木材の知育教材の活用を通して提供できた。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 越谷市では、森林環境譲与税が創設された趣旨を踏まえて、木材利用や普及啓発を実施していく。
- 令和7年4月に開所した緑の森公園保育所の備品として、児童用の机、椅子及び玩具に国産木材を使用した物品の購入を行った。

□ 事業内容

国産木材を使用した、児童用の机、椅子の購入及び埼玉県産木材で作成された玩具の購入。

【事業費】21,553千円（うち譲与税19,142千円）

【実績】児童用机（国産ブナ材使用） 162台

児童用椅子（国産ブナ材使用） 313脚

<両神山の郷つくり（小鹿野町）>

おがのダリアブロック 65個

<森のおくりもの（秩父地域地場産業振興センター）>

ちちぶの木とクマタカのパズル 10個

樹木パズル 20個

ブリ木タウン 30個

TUMICCO 65個

木守りのおうち 20個

ままごとセット 20個

キデドン！和紙太鼓 30個

変身！キッカー 20個



(児童用机・椅子)



(おもちゃで遊ぶ様子)

□ 取組の背景

- ・緑の森公園保育所は、久伊豆神社、緑の森公園等に隣接し、緑豊かな自然の中に建設されたため、周辺の環境に加え、木育を通じて自然との関りや森林環境への理解を深める目的で、国産木材を使用した物品の購入を検討していた。

□ 工夫・留意した点

- ・木製の机、椅子は、フローリングの床材と相性が悪く、非常に滑りやすかったため、脚部に滑り止めを取り付けた。
- ・数ある木製おもちゃの中から、子どもたちが自ら考えながら遊ぶことができ、知育としても活用できるパズル系のおもちゃを比較的多めに選定した。

□ 取組の効果

- ・子どもたちからは、手触りの良さ、プラスチック製のおもちゃにはない目に優しい色合い、木と木のぶつかる音が優しい、見た目が良いなどの意見があり、木材に対しての理解を深めることができた。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人	⑤林業就業者数（※2）：0人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 森林の役割や重要性の理解を促進するため、子どもを対象にした木育イベントを実施した。

□ 事業内容

木育イベント

- ・イオンレイクタウンで毎年行われている「アクトグリーンエコ ウィーク」内で木育イベントを実施した。
木の役割などについてのパネル展示（来場者）、国産材を使ったアートタグ作り（申込者）、木製ジャングルジムの組立・解体ワークショップ（申込者）

【事業費】1334千円（全額譲与税）

【実績】アートタグ作り

1日目48名、2日目46名（延べ94名）

木製のジャングルジム組立・解体ワークショップ

1日目40名、2日目56名（延べ96名）

（アクトグリーンエコウィーク自体の来場者は延べ3万人。）

□ 取組の背景

- ・平成20年（2008年）から続く企業、行政、市民が一体となって開催している大型エコイベント「アクトグリーンエコ ウィーク（会場：イオンレイクタウン）」内で、令和3年（2021年）より森林環境譲与税を活用して木育イベントを実施している。

□ 工夫・留意した点

- ・普及啓発活動を効果的に実施するため、子どもたちへの指導に対する専門的な知識・経験を有した者へ業務を委託した。



（アートタグ作り）

（木製のジャングルジム）

□ 取組の効果

- ・集客力の高いイベント内で開催することによって、たくさんの方に参加していただくことができた。
また、木育に興味のなかった方の目にも触れることができ、普及啓発活動を効果的に行うことができた。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 越谷市では、森林環境譲与税が創設された趣旨を踏まえて、木材利用や普及啓発を実施していく
- 埼玉県内の森林整備により発生した間伐材を活用し登録証等を作成し配付した

□ 事業内容

こしがやSDGsパートナーの登録者へ木製ピンバッジを交付するほか、秩父市産材を活用した鉛筆を購入してイベント等で配布する。

【事業費】1,015千円（全額譲与税）

【実績】木製ピンバッジ：1,500個

秩父産スギ使用鉛筆：3,000本

□ 取組の背景

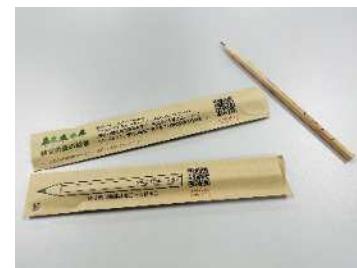
・こしがやSDGsパートナー登録者へオリジナルロゴマークをあしらった木製ピンバッジを交付するにあたり、森林環境譲与税を活用して埼玉県産の間伐材を使用することとした。

令和6年度末登録者数 → 企業・団体等：178 個人：24

・森林環境譲与税を啓発するため、秩父市産材を活用した鉛筆を購入し、イベント等で配布した。



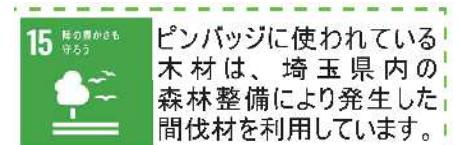
(木製ピンバッジの写真)



(鉛筆の写真)

□ 工夫・留意した点

・埼玉県内の森林整備により発生した間伐材を利用したこと、森林環境譲与税を活用していることがわかるよう、木製ピンバッジ用の紙の台紙を作成し明記した。



(木製ピンバッジ台紙より)

□ 取組の効果

・環境に配慮した取組を実施しているこしがやSDGsパートナー登録者へ交付することで、森林環境譲与税についてより効果的に普及啓発することができた。

・企業の窓口などに設置いただくことで、森林環境譲与税について広く普及啓発ができた。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 越谷市と小鹿野町は「森林の保全及び地球温暖化対策の推進を図るとともに、森林を活用した自然体験を伴う保健・教育・文化的・観光交流事業を実施し、相互の交流の促進を図ることを目的として、令和5年5月に協定を締結。
- 同協定により、小鹿野町の町有林の一部を連携・協力して森林整備を実施。

□ 事業内容

同協定のに基づき、町有林の一部約0.5haを「こしがや・おがの交流の森」と名付け、小鹿野町と連携・協力して森林整備を実施した。

【事業費】3,332,400円（全額譲与税（越谷市））

【実績】刈払い、立木伐採工事等

□ 取組の背景

・「埼玉県山とまちをつなぐサポートセンター」のマッチングにより、県内市町村初の協定を締結した。



森の様子



協定式の様子

□ 工夫・留意した点

・森林の保全だけでなく、埼玉県森林CO₂吸収量認証制度によるカーボンオフセットの実施や、植樹イベントを実施し越谷市民・小鹿野町民の交流促進にも取り組んだ。



こしがや・おがの交流の森で実施した植樹イベントの様子

□ 取組の効果

・森林整備はもとより、カーボンオフセットを実施し、地球温暖化対策の推進を図ることができた。

・越谷市民・小鹿野町民を対象とした交流事業を実施し、地球温暖化や森林保全に対する意識の醸成を図ることができた。また、相互の交流の促進を図ることができた。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 家庭における生ごみの自己処理を実践してもらうとともに、ごみ減量に対する意識の醸成を図る取り組みを実施。
- 木材は、熱伝導率が低く加工しやすいだけでなく、長期間の屋外使用に耐えられることから越谷キエーロの材料として採用。
- 埼玉県産木材の利用促進のため、埼玉県産木材認証制度を活用。

□ 事業内容

【越谷キエーロで生ごみ減量教室の実施／越谷キエーロの販売】

越谷市リサイクルプラザを会場として、ごみ減量啓発の学習と合わせて本体（名称：越谷キエーロ）の製作から行う教室を実施した。また、完成品を希望する方に販売を実施した。完成後は家庭に持ち帰り、生ごみを越谷キエーロに投入することで生ごみ減量活動への協力を依頼した。

【事業費】 1,700千円（うち譲与税1,559千円）

（生ごみ処理器の材料および寸法に合わせたカット等の作業に係る部分に充当）

【実績】	教室	申込組数	参加組数	参加人数
	11回	58組	53組	139人

サイズ	大	中	小
販売数	6	12	6



（製作の様子）

□ 取組の背景

- ・ごみ減量やリサイクルの普及啓発を目的として、家庭ができる生ごみ減量に着目した『ごみ減量啓発事業』を検討する中で、埼玉県産木材を使用した非電動型の生ごみ処理器を活用することとした。

□ 工夫・留意した点

- ・材料のロス（破棄部分）削減のため、図面作成段階から業者と打合せを重ねて本体の形状、寸法を設定した。
- ・「越谷キエーロで生ごみ減量教室」では、自分たちで協力しながら製作できるように手順書を作成した。

□ 取組の効果

教室参加者のアンケート回答（抜粋）

- ・生ごみを捨てる時に気になっていたので、今回作ったキエーロを早速使って子どもと一緒に生ごみ減量に取り組んでみようと思います。親子で楽しく物作りをする良い機会にもなりました。（40代）
- ・親子で一緒にごみ問題を考える機会は貴重です。これから的生活の中でも、ごみや環境について、親子で話す機会が増えそうです。本格的な木工体験も楽しくて、良い時間を過ごせました。（大人）
- ・日常で燃えるゴミは、たくさん出ていましたが、自分達で少しづつ処理していく、少しでも回収するごみなどが減らしていければ良いなと思いました。この教室を通して改めて考える事が出来た。（10代）

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

埼玉県 越谷市（木造公共建築物の整備等）

- 越谷市では、森林環境譲与税が創設された趣旨を踏まえて、木材利用や普及啓発を実施していく。
- 老朽化した木橋の床板、橋桁などを新規の材料に交換する。

□ 事業内容

花田第六公園（花田苑）の老朽化した木橋の床板、橋桁などを新規の材料に交換する。

【事業費】18,150千円（うち譲与税18,150千円）

【実績】木橋：橋桁、床板 桧 1.43m³

太鼓橋：橋脚、梁、橋桁、敷板など 桧 2.86m³

合計：4.29m³

□ 取組の背景

花田第六公園（花田苑）は、「ゆったりとした風情ある景観、安らぎとぬくもりが息づく伝統に培われた日本文化」を楽しめる、本格的な日本庭園である。

木材を利用した、木橋、太鼓橋は老朽化が進み、景観や安全上の観点から問題があるため、木部の取替え工事を検討してきた。



木橋



太鼓橋

□ 工夫・留意した点

・屋外であることから、腐食対策として、保護塗料を施工した。保護塗料は、木材の色味に影響がない透明塗料を選定した。

・各橋の形状は、庭園全体の景観に変化を与えないよう施工当時の形状のまま施工した。

□ 取組の効果

来客者へ新しい木材の温もりを提供できた。また、婚礼などの記念写真の撮影に利用されるため、より良い景観を提供することができた。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人
⑤林業就業者数（※2）：0人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より